

漁況予報 いわし

第 1 4 7 号

2008年 5～6 月漁期
(2008年5月14日発行)

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月が4トン、4月が18トン(速報値)で、前年同期(3月:23トン、4月:11トン)及び過去5年平均(3月:11トン、4月:5トン)と大差はなく、依然として低調な漁況で推移しました。三浦半島東部地区の定置網でまとまった漁獲が見られており、通常漁獲量が多い相模湾東部から湘南地区(湾奥部)では少量にとどまりました。

佐島地区のまき網は、カタクチイワシの混獲物として2ヶ月で合計12トンを漁獲しました。また、4月に入るとヒラゴが見え始め、少量ではありますが餌イワシとして漁獲しました。

3月のしらす漁獲物を調べた結果、マシラス(マイワシの仔魚)の分布量は、ここ数年では前年に引き続き多い模様です。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月が111トン、4月が179トン(速報値)で、前年同期(3月:82トン、4月:272トン)と同程度にとどまり、過去5年平均(3月:481トン、4月:457トン)を下回りました。マイワシと同様に通常漁獲量が多い湘南地区(湾奥部)で少なく、4月に入っても漁模様が本格化しませんでした。

佐島地区のまき網は、三浦半島の沖合で鮮魚としてまとまった量を漁獲しましたが、餌いわしとしての漁獲量は少量にとどまりました。

魚体は、体長10～13cm台の小型成魚及び大型成魚が主体でした。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁は、前年と同様に解禁直後から湾全域で好漁となり、3月の漁獲量は1980年以降で最高値を記録しました。4月も引き続き好漁で推移しました。

当初、春シラスの親となる沖合域のカタクチイワシの大型成魚の資源水準がやや低いいため、春漁はやや不漁と予測しました。好漁になった原因について考察すると、黒潮がシラスの流入に好条件な流型で推移したこと、シラスの群れを分散させてしまうカタクチイワシ成魚の来遊が少なかったこと、マシラス(マイワシの仔魚)の漁獲量がここ数年では多かったこと等が挙げられます。しかし、これらを考慮しても漁獲量は多く、主たる原因を調査、解明しています。

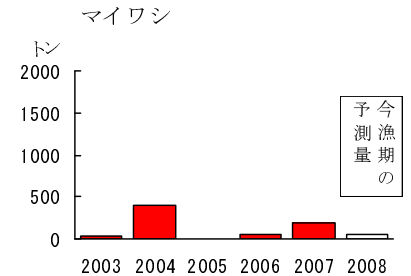
まいわし

今漁期は、中羽イワシ(1歳魚2007年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量指数値から、定置網を主体に約60トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

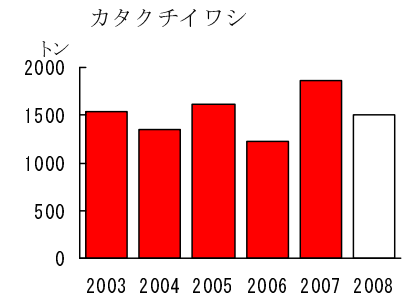


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、大型成魚資源量指数値から、約1,500トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網



しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

大型成魚資源量指数値は低いため、大型模な来遊は見込めないでしょう。

今漁期の漁獲量は、約90トンと予測されます。

